

写真集

『世界遺産 姫路城』北村泰生写真 小学館スクウェア 2012年
夕日、桜、月、紅葉、雪、朝もやなど姫路城の様々な景色を見ることができます。1874年以前と思われる「播州姫路旧城」の写真も載っていますよ。巻末の「姫路城について」では、美しい連立式天守などが解説されています。

『金龍五色之雲―復元の肝心―』前田孝允著 前田漆芸アトリエ 1998年
昨年の火災で正殿などが焼失した今、再建に向け復興は重要な目標となっています。この本では、1945年の沖縄戦で全焼した首里城復元作業の過程を知ることができます。復元作業の前には、構成、文様、色彩など調査研究もされており、年月をかけて平成に復元されました。細部まで丁寧に装飾された首里城の芸術は圧巻です。高2さん見て来てね。

『ヨーロッパの家4』樺山紘一監修 和田久士写真 講談社 2000年
イタリアやポルトガルの町並みを知ることができます。イタリアは、ヴェネツィア、フィレンツェ、アルベロベッロ、アッシジの町並みやマテーラの全景の写真が載っています。ポルトガルは、ギマランイス、エルヴァスのお家やエヴォラの家並みを見ることができます。特に、アルベロベッロのトゥルリは石灰岩の白壁にとんがり屋根でかわいいです。

お仕事

『パリの国連で夢を食う。』川内有緒著 イースト・プレス 2014年
世界遺産を決定しているユネスコで5年半勤務された著者が、国連での体験やパリの暮らしについて書いた本です。仕事のルールなど舞台裏を垣間見ることができるので、国連に興味がある人は特にオススメです。

考える

『危機遺産からのSOS』NHK「世界遺産」プロジェクト編 日本放送出版協会 2006年
危機遺産とは、「危機にさらされている世界遺産」のことです。紛争による危機としてバーミヤン、大地震による危機としてアルゲ・バム、後継者不足による危機としてコルディリェーラの棚田群、無秩序の都市化による危機としてカトマンズ盆地、内戦からの復興と新たな危機としてアンコール・ワットの5つの事例から危機遺産を紹介しています。

『キリマンジャロの雪が消えていく』石弘之著 岩波新書 2009年
キリマンジャロの雪は、『バナナフィッシュ』でアッシュが話していたヘミングウェイの小説で有名になりました。タンザニアにそびえ立つキリマンジャロは、赤道直下にありますが高標高5895mのため雪が降り、山頂には氷河があります。しかし、積雪量が減り氷河が失われつつあります。この本では原因や生態系・人間への影響など環境問題について知ることができます。

『沈みゆく方舟 ガラパゴス』藤原幸一著 講談社＋a文庫 2007年
1978年に世界遺産第一号として登録されたガラパゴス諸島。ダーウィンの進化論の舞台として有名でガラパゴスゾウガメなど固有種が生息しますが、原種の生物が絶滅の危機に瀕しています。世界遺産に登録されて以降、観光客が増加するとともに外来種や病原菌が入り、海洋汚染や地球温暖化によって自然や生態系の破壊が急速に進んでいます。写真も掲載され、分かりやすく説明しています。

『原爆ドーム』朝日新聞広島支局編 朝日文庫 1998年
現在、保存工事(第5回)が実施されている原爆ドーム。原爆ドームに関わる人々や保存運動・遺産登録の過程をこの本から知ることができます。改めて平和が大切であると気付かされます。核兵器禁止条約について、日本がとるべき方向性を考えさせてくれます。

世界遺産

12月11日は姫路城が世界遺産に登録された日です(1993年)。旅行が難しい今、人類の宝物に本で思いを馳せませんか？

はと時計12月号

松蔭中高図書館 2020年12月21日発行
library@shoin-jhs.ac.jp 担当：和田

読む

『カフカ短編集』フランツ・カフカ著 池内紀編訳 岩波文庫 1987年
収録されている20の短編の中に「万里の長城」があります。万里の長城が建設される際、東西それぞれから始める工区分割方式で進めていたことが記載されています。バベルの塔にも触れているので美術・建築に興味のある人にもオススメです。

『ロミオとジュリエット』ウィリアム・シェイクスピア著 中野好夫訳 新潮文庫 1980年
映画のDVDも借りられます！
憎み合う家同士のロミオとジュリエットが恋に落ちた為、家族には内緒で結婚を誓うのですが、二人の恋は悲劇へと導かれていく物語。世界遺産のヴェローナが舞台です。シェイクスピアが描いたジュリエットのモデルとされる人物の暮らしていた家が今もヴェローナに残っています。

キリスト教

『CANTERBURY CATHEDRAL』Jonathan Keates著 Angelo Hornak写真 Scala Publications 1984年

カンタベリー大聖堂はイギリス国教会(英国聖公会)の総本山であり、1988年に世界遺産に登録されました。ゴシック様式の豪華な装飾に見とれてしまいます。解説は全て英語で書かれているので、英語を学びながら世界遺産を知ることができます。

『かくれキリシタン』後藤真樹著 とんぼの本 新潮社 2018年
代々続くかくれキリシタンの方や現在はキリスト教徒になられた方などの貴重な証言とともに聖地や史跡を紹介しています。大浦天主堂のステンドグラスの光が差し込む祭壇はきれいで神秘的です。

『モン・サン・ミッシェル』ジャン＝ポール・ブリゲリ著 岩澤雅利訳 池上俊一監修 創元社 2013年

フランスの小島の大部分に建てられた修道院は、19世紀以降、砂が堆積する自然現象が発生し、2005年以降の工事で再び島らしさの景観を維持しています。この本を読めば、歴史はもちろん、建築や地形、自然環境についても知ることができます。

調べる

『世界遺産地図 どんな構造？誰が作った？』インターナショナル・ワークス編 幻冬舎 2003年

この本は、「謎」「建築技術」「歴史」のテーマから世界遺産のことがわかります。1章では、エジプトのピラミッドがどのように作られたのかなど「謎」に迫ります。2章では、インドのタージマハルなど「建築技術」を解説しています。3章では、ドイツのケルン大聖堂が完成するまで600年以上かかった過程など「歴史」から読み解いています。

『自由の女神物語』メアリー・シャピロ文 ハック・スカーリー絵 近藤純夫訳 偕成社 1987年

自由の女神はアメリカのシンボリック存在ですが、実はフランスで作られたもので、フランスからアメリカへ贈られたものなのです。この本では、作られた理由や過程など絵とともに分かりやすく解説しています。

『世界遺産なるほど地図帳』講談社編 講談社 2007年

「建造物背比べ」、「女性が主役の世界遺産」、「景観美が優れた遺産の代表例」など様々なテーマでピックアップされています。興味があるテーマから世界遺産を知ることができます。

『シドニー・ウルル（エアーズロック）』海外情報事業部編 JTBパブリッシング 2019年

先住民アボリジニの聖地ウルル(エアーズロック)は国立公園に指定され、世界遺産の複合遺産(文化・自然の両方)で登録されています。ガイドブックなので気軽に壮大な世界を味わえます。このララチッタシリーズは今年入荷したばかりの本です。

毎年恒例の司書・今年の1冊です。

今年は旅行に行くことができず、読書や映画鑑賞が特に楽しく感じられる1年となりました。なかでも印象的だったのは『カーテンコール！』加納朋子著 新潮文庫 2020。閉校が決まった女子大なのに、単位不足で卒業できない生徒が数名いて…というお話。詳しくは読んでみてのお楽しみなのですが、それぞれの事情で生きづらさを抱えている彼女たちに共感したり、意外性に驚いたり。自分ではどうにもしたい悩み、同級生の存在、ひいては学校という環境について考えながら読みました。今年に限らず、不安定な気持ちで毎日を過ごすのは大変なことです。しんどくなってしまった時、少しでも気持ちがやわらぐ場所として図書館もありがたいなあ、と思いました。

(高田)



今年の一冊

今年是世界一有名な猫ボブが交通事故で亡くなった年でした。

離婚した親とうまくいかず、バンドも失敗して薬物依存になり、家族や友人みんなから見放された青年ジェームズ。ホームレスになって自暴自棄の生活をつづけていました。ある日、傷ついた猫に出会い、なけなしの食費を治療費につぎ込んで助けます。すると猫はストリートミュージシャンの彼のあとを、危ないロンドンの中心までついてまわるようになります。猫の面倒を一生懸命見ているジェームズを見て、周りのひとがジェームズが優しい人間だと気づき、助けてくれるようになります。いざこざに巻き込まれ、演奏ができなくなってホームレス支援の雑誌ビッグイシューを売るようになります。そこでもボブの人気に嫉妬され、販売仲間に嫌がらせをされたりとまたトラブル…。しかし猫のボブに支えられ、薬物依存を断ち切り、ボブとの生活を本に書いてベストセラーになったのが『ボブという名のストリートキャット』ジェームズ・ボウエン著 辰巳出版 2013です。YA（ヤングアダルト）推薦図書にもなっています。

この本をベースに映画化されたものが『ボブという名の猫 幸せのハイタッチ』。なんと猫のボブが本人役で出演しています。DVDが図書館に入ったのでぜひ見てください。そして来年は映画第2弾が公開されます。ボブの勇姿を焼き付けて下さい。

もうすぐクリスマス。ビッグイシューの販売員の方を見かけたら一冊買ってみませんか？定価450円のうち230円がホームレスの人の利益になります。情報を得られて、人助けにもなる。一石二鳥でしょ？

(眞鍋)



『杉原千畝物語一命のビザをありがとう』 杉原幸子・杉原弘樹著 金の星社 1995年

皆さんは杉原千畝という人を知っていますか？彼は、1939年リトアニアの日本領事館に領事代理として赴任し、1940年ナチスの迫害から逃れてきたユダヤ人難民に「通過ビザ」を発給した人物です。このビザの発給によって日本を経由して各国に亡命できたユダヤ人は6,000人に上ります。この本は主に妻の幸子さんによって書かれ、家族の絆・彼の生き方・信念が分かります。心温まる本で、読み終わった後、私が小学生の時まで近所に住んでいた、杉原千畝と同じ時代を生きた明治生まれの曾祖父母に会いたくなりました。

今年は杉原千畝の生誕120年であり、ビザ発給から80年です。しかしながら、コロナの影響でリトアニアにある「杉原記念館」は入場者が激減し、運営が厳しくなっています。一方、神戸もユダヤ人と深い関係があります。かつて、神戸ユダヤ共同体というユダヤ人の支援施設が北野異人館近くに存在しました。この施設では、彼が発給した通過ビザを持ったユダヤ人難民が経由で神戸に滞在した際、各国へ亡命するまでの期間支援していたそうです。神戸で今年11月19日に施設跡地に案内板が設置され、除幕式が開かれました。

杉原千畝の「世界は大きな車輪のようなものですからね。対立したり、争ったりせず、みんなで手をつなぎあって、回っていかなければなりません…」という言葉が印象に残りました。現在の状況でも言えると思います。コロナ禍で様々なところに悪影響が出てきています。そんな困難な時だからこそ、手を取り合って助け合わなければならないと感じます。そして、コロナが一刻も早く収まることを願っています。

(和田)

11月のチャリティブックセールには4,680円の寄付金が集まりました。

ご協力ありがとうございました。

シャンティ国際ボランティア会を通じてアジアの恵まれない子どもたちに届けられます。



冬休み貸出実施中！図書10冊まで貸出可能！

返却日は1月6日（水）

図書館開館は年末は12月25日（金）まで

年始は1月5日（火）から。

8：30～16：15

1月5日（火）から読書みくじ&ささやかなプレゼント始めます。本を借りた人に一日1回限定。先着60名まで

